

# NISEの研究活動

## 研究体制

研究活動を組織的に行うために、各年度の研究計画を立案するとともに、進行管理等を行う研究チームと研究班を設けています。研究チームと研究班は、以下の6チームと10班で構成され、研究課題に応じたチーム、班を構成し研究を推進しています。

### 平成30年度 研究チーム、研究班一覧

研究チーム		チーム代表	チーム副代表
各障害種別を通じて、国の重要な政策課題に対応する研究チーム	インクルーシブ教育システムに関する研究チーム (インクルーシブ教育システムチーム)	金子 健	横山 貢一
	特別支援教育における教育課程に関する研究チーム(教育課程チーム)	横倉 久	北川 貴章 若林 上総
インクルーシブ教育システムの構築に向けて地域や学校が直面する課題に対応する研究チーム	教育相談・就学先決定に関する研究チーム(教育相談・就学チーム)	牧野 泰美	山本 晃
	インクルーシブ教育システムの理解啓発に関する研究チーム (理解啓発チーム)	久保山茂樹	伊藤 由美
	多様な教育的ニーズに対応できる学校づくりに関する研究チーム (学校づくりチーム)	齊藤由美子	小澤 至賢
	学校における合理的配慮及び基礎的環境整備に関する研究チーム (合理的配慮・環境整備チーム)	横尾 俊	杉浦 徹
研究班		班長	副班長
障害種別専門分野の課題に対応する研究班	視覚に障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班(視覚班)	金子 健	土井 幸輝
	聴覚に障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班(聴覚班)	山本 晃	宇野宏之祐
	知的障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班(知的班)	涌井 恵	清水 潤
	肢体不自由のある子どもの特別支援教育に関する研究班(肢体不自由班)	吉川 知夫	北川 貴章
	病弱・身体虚弱等にある子どもの特別支援教育に関する研究班(病弱班)	新平 鎮博	藤田 昌資
	言語に障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班(言語班)	滑川 典宏	久保山茂樹
	自閉症のある子どもの特別支援教育に関する研究班(自閉症班)	柳澤亜希子	李 熙馥
	発達障害(LD・ADHD・高機能自閉症等)のある子ども又は情緒障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班(発達・情緒班)	横山 貢一	若林 上総
	重複障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班(重複班)	大崎 博史	齊藤由美子
各障害種に共通する課題を研究する班	特別支援教育における教材・教具の活用に関する研究班(教材・教具班)	杉浦 徹	新谷 洋介

# 研究体系

研究は、以下の研究体系に基づき、戦略的かつ組織的に実施します。

研究区分	研究の性格(研究期間)
基幹研究	文部科学省との緊密な連携のもとに行う、国の特別支援教育政策の推進に寄与する研究 その内容等により、以下のとおり区分する。 ・横断的研究：各障害種別を通じて、国の重要な政策課題の推進に対応した研究(原則5年間) ・障害種別研究：各障害種における喫緊の課題に対応した研究(原則2年間)
地域実践研究	インクルーシブ教育システムの構築に向けて、地域や学校が直面する課題の解決のために地域と協働で実施する研究。 メインテーマの下に、数本のサブテーマを設定(原則2年間)
外部資金研究	科学研究費補助金等の外部資金を獲得して行う研究
受託研究	外部からの委託を受けて行う研究

# 基幹研究

平成30年度に実施する基幹研究の概要は以下のとおりです。

## 平成30年度 研究課題一覧(基幹研究)

研究区分	研究課題名	研究チーム 研究班	研究代表者	研究期間
横断的研究	我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する総合的研究 －インクルーシブ教育システム構築の評価指標(試案)の検証－	インクルーシブ教育システムチーム	金子 健	平成 28～32年度
	特別支援教育における教育課程に関する総合的研究 －新学習指導要領に基づく教育課程の編成・実施に向けた現状と課題－	教育課程チーム	横倉 久	平成 28～32年度
障害種別 研究	視覚障害を伴う重複障害の児童生徒等の指導に関する研究 －特別支援学校(視覚障害)における指導を中心に－	視覚班	金子 健	平成 29～30年度
	聴覚障害教育におけるセンター的機能の充実に関する研究 －乳幼児を対象とした地域連携－	聴覚班	山本 晃	平成 30～31年度
	精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育的支援・配慮に関する研究	病弱班	土屋 忠之	平成 29～30年度
	言語障害のある中学生への指導・支援の充実に関する研究	言語班	滑川 典宏	平成 30～31年度

# 地域実践研究

地域実践研究は、平成28年度より開始した新しい体系の研究です。地域や学校が直面する課題について、その解決を図るための実践的な研究を都道府県・指定都市教育委員会及び市町村教育委員会から派遣された地域実践研究員と共に地域と協働して推進します。

平成30年度に実施する地域実践研究の概要は以下のとおりです。

## 平成30年度 研究テーマ一覧（地域実践研究）

### ◆ メインテーマ1：インクルーシブ教育システムの構築に向けた体制整備に関する研究

サブテーマ	研究チーム	研究代表者	研究期間
教育相談・就学先決定に関する研究	教育相談・就学チーム	牧野 泰美	平成30～31年度
概要：市町村教育委員会が総合的な判断をして決定することとされている障害のある子どもの就学先決定に関し、本人・保護者への十分な情報提供、本人・保護者の意見の尊重、合意形成、柔軟な見直し等の過程において、地域が抱える様々な課題の解決を目指します。			
インクルーシブ教育システムの理解啓発に関する研究	理解啓発チーム	久保山茂樹	平成30～31年度
概要：共生社会の形成のためのインクルーシブ教育システムの構築には、全ての教師、子ども、保護者・地域の理解が重要です。本研究では、訪問調査等を通じ、今後の10年を見越して学校がめざしたい姿や教師がめざしたい姿を検討し、教育行政や教育現場に提言します。			

### ◆ メインテーマ2：インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育に関する実際研究

サブテーマ	研究チーム	研究代表者	研究期間
多様な教育的ニーズに対応できる学校づくりに関する研究	学校づくりチーム	齊藤由美子	平成30～31年度
概要：特別支援教育や児童・生徒指導の充実等、学校は子どもの多様な教育的ニーズに応えることが求められます。本研究は、地域における学校づくりの課題や取組の現状を明らかにし、教育現場で活用できる学校づくりモデルやそのプロセスを支援するツールを提案します。			
学校における合理的配慮及び基礎的環境整備に関する研究	合理的配慮・環境整備チーム	横尾 俊	平成30～31年度
概要：本研究では、小・中学校において、基礎的環境整備を行ったり、児童生徒の実態に応じた合理的配慮を提供したりする際に必要とされる手立てを明らかにし、校内の専門性向上のための課題解決に寄与することを目的としています。			



平成30年度の地域実践研究員



地域実践研究事業合同会議の様子

## 外部資金研究

平成30年度に科研費により実施する研究課題は以下のとおりです。

### 平成30年度 科研費による研究課題一覧

研究種目	研究課題名	研究代表者	研究期間
基盤研究 (A)	通常学級における子ども・教師の多様性を包含する多層指導モデル実現への地域協働支援	海津亜希子	平成29～31年度
基盤研究 (B)	通常学級における協同的でユニバーサルデザインな授業実践の開発	涌井 恵	平成27～30年度
基盤研究 (C)	メンター機能を活用した自閉症幼児の家族への早期支援プログラムの開発と効果評価	柳澤亜希子	平成28～31年度
	吃音のある子どものレジリエンスの向上に関する教育支援プログラムの開発	牧野 泰美	平成28～30年度
	インクルーシブ教育システムにおける合意形成のプロセスに関する研究	横尾 俊	平成28～30年度
	インクルーシブ教育システムにおける中学校の通級の在り方に関する研究	笹森 洋樹	平成28～30年度
	介入整合性を指標とした特別支援教育コーディネーターの機能向上に関する実証的検討	若林 上総	平成29～31年度
	特別な配慮を要する子どもに対する社会の情報化に対応した消費者教育教材の開発と検証	新谷 洋介	平成29～31年度
	通常学級担任教師と他者との連携に関する研究：特別支援教育連携尺度の開発	竹村 洋子	平成29～31年度
	特別支援学校 (肢体不自由) における意思決定論的アプローチに基づく授業開発研究	北川 貴章	平成30～32年度
	通級による指導における発達障害のある子どもへの自尊感情の支援に関する研究	伊藤 由美	平成30～32年度
	中学ことばの教室担当者の役割とあり方に関する研究－教室経営ガイドブックの作成－	滑川 典宏	平成30～32年度
	合理的配慮の提供と特別支援教育を推進するための高等学校校内研修プログラムの開発	大崎 博史	平成30～32年度
	教科等のねらいの達成を目指した交流及び共同学習の実践方法に関する開発研究	齊藤由美子	平成30～32年度
	特別支援学校 (知的障害) における体育授業の現状及び充実に向けた実証的研究	村井敬太郎	平成30～33年度
挑戦的萌芽研究	発達障害のある学生に対する効果的な「キャリア意思決定」のあり方に関する研究	榎本 容子	平成27～30年度
若手研究 (B)	共に学ぶ場における発達障害児と典型発達児の他者・自己理解を促進する心理教育的支援	李 熙馥	平成28～31年度
	デジタル教科書・教材のためのユーザビリティ技術基盤の確立	西村 崇宏	平成30～32年度
研究活動スタート支援	聴覚障害幼児児童生徒の作文学習を支援するフォーマットの開発に関する研究	山本 晃	平成29～30年度

## 受託研究

平成30年度に実施する主な受託研究課題は以下のとおりです。

### 平成30年度 受託研究課題一覧 (受託研究)

研究課題名	委託機関	研究代表者	研究期間
盲ろう幼児児童生徒の支援体制整備に関する開発的研究－盲ろう担当教員等研修会－	一般財団法人 柳井正財団	星 祐子	平成29年度～ 30年度
国内の事業所内保育施設における聴覚障害幼児の実態に関する調査	一般社団法人 日本事業所内 保育団体連合会	山本 晃	平成30年度
点字初学者用の音声読み上げ機能を備えた解読し易いUV点字学習教材の開発	公益財団法人 大川情報通信基金	土井 幸輝	平成29年度～ 30年度

# 刊行物による研究成果等の普及

NISEでは、実施した研究における研究成果は研究成果報告書、サマリー集、ガイドブック、マニュアル等様々な形態で作成し、全てWEBサイトに掲載しています。これらの刊行物は毎年度作成することで、最新の研究成果をできる限り早く教育現場に普及できるようにしています。

## ■ 研究成果報告書、書籍、リーフレット

NISEでは、実施する研究課題が終了した時点で、その成果をまとめた「研究成果報告書」を研究課題ごとに作成し、WEBサイトにも掲載しています。

さらに、NISEの研究成果をよりわかりやすく知っていただくため、研究課題ごとの成果等を簡潔にまとめた「研究成果報告書サマリー集」を毎年度作成し、全国の教育関係機関等に送付するとともに、WEBサイトにも掲載しています。

また、研究成果の中で、教育現場での指導や支援等にすぐに役立つ情報については、活用しやすいようにリーフレット、ガイドブック、マニュアル等にまとめて、市販の書籍として発行しています。

研究成果報告書	「ことばの教室」がインクルーシブ教育システム構築に果たす役割に関する実際研究 －言語障害教育の専門性の活用－ 平成29年3月	
	知的障害教育における「育成すべき資質・能力」を踏まえた教育課程編成の在り方 －アクティブ・ラーニングを活用した各教科の目標・内容・方法・学習評価の一体化－ 平成30年3月	
	研究成果報告書サマリー集(平成29年度終了課題) 平成30年5月	
書籍	小学校・中学校 通常の学級の先生のための手引き書 －通級による指導を通常の学級での指導に生かす－ (株)ジアース教育新社 ISBN978-4-86371-450-2 平成30年2月	
	育成を目指す資質・能力を踏まえた教育課程編成の在り方 －アクティブ・ラーニングを活用した各教科の目標・内容・方法・学習評価の一体化－ (株)ジアース教育新社 ISBN978-4-86371-446-5 平成30年1月	
	インクルーシブ教育システム構築に向けた地域における体制づくりのグランドデザイン －文部科学省モデル事業等の実践を通じて－ (株)東洋館出版社 ISBN978-4-491-03374-7 平成29年7月	
リーフレット及び事例集	通常の学級と通級による指導の学びの連続性に焦点を当てて 平成30年3月	
	自閉症のある子どもの指導目標の設定・見直しにおけるポイント －子どもの主体的な学びを引き出すために－ 平成30年3月	
	「我が国のインクルーシブ教育システム構築に関する総合的研究」調査報告(概略) 平成29年12月	
	特別支援学校(知的障害)に在籍する自閉症のある幼児児童生徒の実態の把握と指導に関する研究 －特別支援学校(知的障害)での自閉症教育の取組に関する調査(速報)－ <a href="http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/7412/b_309.pdf">http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/7412/b_309.pdf</a> 平成29年3月	
調査報告書	聴覚障害教育 指導実践事例集 平成30年3月	
	障害者の生涯学習活動に関する実態調査 <a href="http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/7412/b-315.pdf">http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/7412/b-315.pdf</a> 平成30年3月	
	インクルーシブ教育システム構築の現状に関する調査報告書 平成29年12月	
	平成28年度全国難聴・言語障害学級及び通級指導教室実態調査報告書 平成29年9月	

## ■ 研究紀要

NISEでは、特別支援教育に関する未発表の論文等を所内より募集し、内容審査を行った上で、「国立特別支援教育総合研究所研究紀要」として毎年度発表しています。研究紀要は、全国の教育関係機関等に送付するとともに、WEBサイトにも掲載しています。

### ◆ 研究紀要第45巻（平成30年3月発行）の主な内容

- ①原著論文
  - ・自閉スペクトラム症児におけるナラティブの調整－「心の理論」の理解との関連－
- ②研究展望
  - ・日本における知的障害者の就労の動向と課題に関する文献研究
- ③調査資料
  - ・教育水準局の監査報告書に記述される特別支援学校の評価と学習成果の改善点
  - ・小・中学校の特別支援学級に在籍する重度の障害のある子どもの学びとその学びを支えるもの－担任へのインタビューと学習場面の観察を通して－
  - ・特別支援学校（聴覚障害）の教科指導におけるICT活用の現状－特別支援学校におけるICT活用全国調査から－
  - ・インクルーシブ教育システムの構築を推進するためのスクールクラスターを活用した体制づくり－宮崎県のエリアサポート体制をもとに考える－

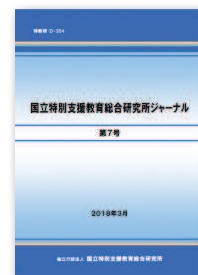


## ■ 特総研ジャーナル

NISEでは、研究をはじめとする様々な活動の成果をまとめた「国立特別支援教育総合研究所ジャーナル（特総研ジャーナル）」を毎年度作成し、WEBサイトに掲載しています。

### ◆ 特総研ジャーナル第7号（平成30年3月発行）の主な内容

- ①平成29年度研究課題一覧
- ②平成29年度研究成果サマリー
- ③研究報告
  - ・がんのある・あった学生支援に関する国立大学への調査報告
  - ・医療的ケアを実施する小・中学校等を支える教育委員会の取組についての一考案
  - ・米国カリフォルニア州におけるコモンコア・州スタンダードの障害のある子どもへの適用についてEDgeニュースレター2014年冬／春号より
- ・全国小・中学校弱視特別支援学級及び弱視通級指導教室設置校及び実態調査
- ④諸外国における障害のある子どもの教育－通常教育及び障害のある子どもの教育課程を中心に－
- ⑤国際会議・外国調査等の報告
- ⑥学会等参加報告
- ⑦事業報告

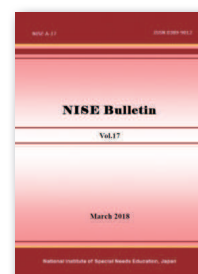


## ■ NISE Bulletin

NISEでは、研究をはじめとする様々な活動の成果や日本の特別支援教育の政策動向等を英文でまとめた「NISE Bulletin」を毎年度作成し、WEBサイトに掲載しています。

### ◆ NISE Bulletin Vol.17（平成30年3月発行）の主な内容

- ・平成29年度研究課題の概要
- ・平成28年度研究成果サマリー
- ・事業報告
- ・日本の特別支援教育の政策動向（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課）
- ・国立特別支援教育総合研究所研究紀要第44巻の要旨



詳しくはこちら→

NISE WEBサイト > 研究紹介

<http://www.nise.go.jp/nc/study>